(4) 看護実践における Ethical Caring Competency
―尺度開発と実用例―

保健看護学部　保健看護学科　教授　片山　はるみ

１．Ethical Caring Competency とは

看護実践における Ethical Caring Competency（以下 ECC とする）は「原則の倫理を学んで患者の最善が妨げられていることに気づける看護職者が，日々のケアの中で気づき，声を上げ，議論し，患者自身の最善のための合意形成を促すために，直接的・間接的にはたらき，経験を内省しながら成熟を続ける，という一連の行動に示される能力である」と定義されている．ECC は看護師15名を対象としたエキスパートインタビューによって得られたデータの質的記述的分析から抽出され，内容妥当性が確認された4コア・コンピテンシーと22コンピテンシーで構成されている．この22項目群（Ethical Caring Competency List，以下 ECCL とする）はケアの倫理学者である Toronto の理論に照らし，ケアの倫理哲学との意味的な適合性により基準妥当性が確認されている．

２．The Ethical Caring Competency Scale（ECCS）の信頼性・妥当性

我が国の2病院で働く看護師1,157名を対象に無記名自記式質問紙を用いた横断研究が実施され，22項目の ECCL から構成されたリッカート尺度の信頼性・妥当性が検証された．質問紙は人口統計データ，22コンピテンシーからなる ECCS の草案，医療・看護倫理の学習経験，看護師の労働意欲測定尺度から構成された．962名分の有効回答を用い，確証的因子分析によって4因子22項目の因子構造の妥当性が確証された．安定性は ECCS 合計得点の再テストにより（r = .900，p <. 0001），4コア・コンピテンシーの内的整合性はクロンバックのα係数（α = .72～ .89）によって確認された．

３．ECCL の実用例

看護における実践能力は臨床経験や実践の習熟度に応じて質的に変化することが想定されるため，ECCL の22項目は習熟度に応じて難易度別に分類されたルーブリック形式に再構成され，行動指標として使用可能となった．また ECCS は統計学的に信頼性・妥当性が検証されたことにより，学習プログラムの効果を評価することも可能となった．そこで，ECCL を目標に置いた学習プログラムを作成し，中間管理職を目指す看護職を対象にした研修を3年間継続し，研修生を除外した他の看護職員を対象に前後比較（対応無し）（前n = 446，後n = 314）したところ，ECCS の全ての因子で得点が有意に上昇し，併せて「身体抑制認識」の得点は有意に低下した．よって，この研修が広く波及効果をもたらしたことが確認された．

ECCL は現在，ケアの倫理哲学の理論的背景を持つ医療者向けの唯一のコンピテンシー・リストであり，多言語への翻訳と異文化妥当性が検証中である．